

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0191500099, 社会福祉法人 きずな会, グループホーム きずなII ユニット1, 二海郡八雲町立岩55番地36, 平成25年11月10日, 平成26年4月22日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が地域との交流や繋がり持て、楽しみや意欲も持てる様な環境を作りたく、外出しての食事や外部へ食事を発注するなどし、より生活を楽しくして頂けるように計画を立てている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500099-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 社会福祉法人北海道社会福祉協議会, 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地, 平成26年2月24日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平屋建ての中心部に事務室を設え、左右に同じ造りのユニットで、事務室が玄関に面しているため、人の出入りが把握しやすい造りとなっている。隣接するショートステイとは回廊で行き来ができるようになっている。回廊には地域の愛好家による絵画や写真等が飾られており、楽しみのひとつとなっている。また同敷地内には、母体法人の高齢者住居があり、その2階には障害者住居も用意されており、広い視野で援助を続けている。この3箇所の事業所は協力関係が強く、各イベントや防災訓練等で発揮されている。当事業所の優れている点は防災体制への意気込みが挙げられる。消防署職員に運営推進会議委員を依頼し、毎回の推進会議で防災や災害、川の氾濫にとどまらず、誤嚥の要因分析等、多岐にわたってのアドバイスを受けており、職員の危機意識の向上に大きく寄与している。ケアについても、介護計画に基づいた対応が貫かれており、例えばオムツについて、病気以外の使用は不要としている。脱オムツを介護計画に盛り込み、当たり前のケアとして支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation criteria and results for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室等にいつでも見れる所に掲示し、いつも理念を念頭に置き実践していけるよう職員全体で取り組んでいる。	基本理念とケア理念を事務室や玄関、休憩室にも掲示し、ケアの実践でも忘れないように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内行事への参加や施設行事への参加のお誘い等をし、地域の一員として交流をしている。	町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。事業所の夏祭りには、地元住民が大勢訪れるなど、相互の交流が促進されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加や施設行事へ参加して頂いた際、認知症の方の生活を見て頂き、徐々に理解して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事・活動の状況を報告し、ご意見を頂きサービス向上に活かしている。	昨年度の外部評価を踏まえ2ヶ月に1度、地域や行政、家族の出席を得て、運営推進会議を開催している。特に消防署の委員からの意見は、防災に留まらず、日常生活に潜む危険性を取り上げるなど、貴重な意見となりサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡を取り、訪問調査等で訪問があった場合も積極的に実情を伝え、協力関係を築いていけるよう取り組んでいる。	町主催の地域ケア会議が2ヶ月に1回程度開かれており、行政との情報交換等により、積極的な協力関係の維持に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、月1日の委員会にて報告・検討し拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会が月に1度、身近な事例を取り上げて、職員間で検証し、拘束ゼロになるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や、月2回の委員会を行い、その中で学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の会議にて学ぶ機会を設け制度を理解し必要に応じ活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に沿って説明し、不安・疑問点がある場合は納得するまで説明し、時間が空いて再度不安・疑問点がある場合も、その都度理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪等、お便りを出し状況報告した際、意見・要望を聞いている。	家族には利用者の日常生活を便りて伝えている。また来所時にいつでも意見等を話せる雰囲気になるよう努め、意見や要望を聞き取る体制を整えている。	家族からの意見、要望については、事業所側から積極的に働きかける必要があり、アンケートを含め、より実践的な方法により意見の反映に活かすよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	書面で提出してもらい、事業計画の公表と共に提出された案件についても検討し運営に反映させている。	職員会議の他に朝夕の申し送りの時の様々な意見を書面にして法人本部で検討し、運営に反映させる仕組みが整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修等において、知識習得やトレーニングの機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修を実施し交流する機会を設けサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時などで利用者様の状況を把握しご家族様との情報交換を行い、安心して生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より必要に応じご家族様から不安や要望等随時対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時において、本人やご家族様よりの情報を基にアセスメントをとり、ケアプランを作成し必要としている支援をできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的の雰囲気の中で共に生活し個々の必要に応じてケアをするとともに想いを共有できる関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が不安や寂しさを訴えた場合にはご家族様とのやり取りにて面会の機会を作れるよう支援し、共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会などが主催するイベントへの参加するなど、家族以外の人と継続的に交流できるよう、支援に努めている。	馴染みの関係の継続では商店や床屋、病院への訪問が多いが、手紙や電話での支援も馴染みの関係維持に繋がるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話しやすい環境作りや関われる機会を作り、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関わりや相談、または必要とされる方や家族への支援の関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人希望に沿った支援に努め必要があれば家族に情報を提供してもらいながら支援を行っている。	利用者の日常生活に寄り添う事で、思いや願い、また嫌な事を把握し、職員間で認識を共にしながら、本人の意向を大切に作る支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らしを本人や家族等から情報を提供して頂きサービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で個人の状態の観察アセスメント チャート表や日課表等のツールを活用に本人の心身状態や有する力等の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様を担当する職員の作成したモニタリング等をもとにサービス担当者会議で各関係者と協力の上介護計画を作成している。	担当者が過去のモニタリングより目標達成度を把握し、家族や本人の意向を組み入れながら6ヶ月ごとに介護計画を作っている。また計画目標への進捗度は日誌により把握し、目的を持ったケアに邁進している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	温度版・ケアチェック表等の介護記録を基に職員間での情報の共有、意見の交換により介護計画の見直しや実践に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の方に満足してもらえるように食事やおやつの時間に面会あれば入居者様と一緒に食べて頂いたり、その時の状況に合わせ、送迎などをし面会しやすいように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者様本人やご家族の方の希望をもとにかかりつけの医師と連携を取り、納得の得られる適切な医療を受けられるよう支援している。	医療機関が多くない町のため、個人医院と総合病院の両方がかかりつけ医となっている場合が多い。どちらの通院も職員が同行し、結果は必ず家族へ伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態を日々報告・相談し、月2回程度パートタイマーのナースの配置により良いケアを提供できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、介護連絡票に詳細を記入し、病院関係者との情報交換・相談を密に取り関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、事業所としての終末期の方針を説明するとともに主治医とご家族とは常に情報交換している。	契約の時に重度化した場合の医療行為等について説明し、状況に応じて、家族と主治医と連絡を保ちながら支援していく旨説明している。事業所としての終末期の指針については、作成を検討中である。	開設から年数が経っているので、看取り介護に対する文書による指針の作成は急務であり、今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを活用し内部研修を行い事故発生に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は近隣のショートステイや共生型支援ハウスと合同で消防署の指導のもと実施している。また町内パトロール隊の方に参加して頂き、災害時の協力体制について打ち合わせ等を行っている。	火災を想定し、年2回避難訓練を消防署指導で実施している。訓練には同法人の2つの事業所と地域住民の自主組織町内パトロール隊も参加し、一体となった協力体制で臨んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の会議にて人格の尊重・プライバシーについて勉強会を設け日々の実践に活せるよう努めている。	日々のケアや日常会話等で利用者の人格を損ねていないか、接遇委員会にて検証し、実践過程で活かせるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「何が食べたいか」「今日は何を着ようか」など選択し自己決定できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回、理容院による散髪や日々の洋服の選択によりおしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器拭きなど職員と一緒に楽しみながら行って頂いている。季節の野菜・果物など献立にも工夫している。	調理の専属職員が利用者一人ひとりの嗜好等を把握し、楽しめる食事になるよう工夫を凝らしている。利用者は本人の能力に応じて下膳やテーブル拭き等を行い、みんなで一緒に楽しむ食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の好みに合わせ水分補給に気を配り、一人ひとりに合った食事量を考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員が声掛け支援し利用者様が出来ない部分は介助にて清潔保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所前オムツ使用していた利用者様もトイレの声掛け誘導にて排泄の自立支援を行っている。	脱オムツが事業所の基本であり、そのためトイレで排泄するよう取り組み、時間誘導や排泄サインの確認等、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲用水にオリゴ糖やファイバーなど使用し、利用者様へ運動を促し自力排便できるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて楽しんでゆっくりと入浴して頂けるよう声掛け配慮している。	大きめなお風呂で豊かなお湯を楽しめるよう入浴を支援している。週に2回以上は入浴できるように努め、無理強いのないゆっくりとした入浴になるよう臨んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の把握や、不安を取り除くなどをし休息・安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の目的や副作用などを理解できるよう、薬の説明書をカルテに添付し看護師の指導の下、服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が楽しみをもって生活を送れるようにレクリエーションや良天時の外出など一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望あれば付き添ったりしているも、外出支援に関しては一部の利用者様に限られてしまっている。	事業所の周辺が散歩できる環境にあり、日光浴等を楽しんでいる。また、併設の障害者住居の外出行事に参加したり、季節のドライブなど、より多く外出できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機や公衆電話・買い物にてお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・行事に合わせて飾り付けし居心地よく過ごせるよう配慮している。	居間は明るく光に満ちており、ゆっくりと過ごせるように工夫がされている。廊下や居間は季節の飾りつけも華美ではなく、落ち着いた雰囲気であり、居心地のよさを感じる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ホール内に応接セットを配慮し工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様を使い慣れた家具や日用品を自由に持ち込んで頂き、過ごしやすく配慮している。	居室には筆筒とベッドが備え付けてあり、馴染みの椅子や仏壇等が配置され、心地のよい自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることは、自分でやって頂くように声掛け、見守りしながら一緒に行っている。		